Vene Investment

VENEZUELA TODAY

２０１７年８月１８日～８月２０日報道　　No.０２２　２０１７年８月２１日（月曜）

（写真）ベネズエラ国営放送 VTV 写真ギャラリー

２０１７年８月１８日（金曜）

政 治

「制憲議会　国会の立法権を奪取」

「制憲議会の対応を各国が避難」

「制憲議会　国会との対話ルート設定を希望」

「野党　ララ州知事の連続出馬を非難」

「元検事総長　Odebrecht 汚職に大統領も関係」

経 済

「PDVSA 総裁　外国の金融ブロックを非難」

「今週の原油価格は１バレル４５．１ドル」

「DICOM　第１３回の結果を公表」

２０１７年８月１９日（土曜）

政 治

「元検事総長夫妻　コロンビア入りを確認」

「国会　制憲議会の決定を拒絶」

「外相　サパテロ氏仲裁の対話を呼びかけ」

「大統領　１８年の大統領選出馬に意欲」

「エクアドル　ベネズエラ大使を帰国」

経 済

「米国に PDVSA の石油タンカー停泊」

「中銀　２０億ドルの流動性資金あり」

社　会

「貿易外国投資相息子が乗った飛行機が墜落」

２０１７年８月２０日（日曜）

政 治

「大統領　元検事総長の汚職加担を指摘」

経 済

「専門家　１７年の石油輸出は３３０億ドル」

「カルボスリア　生産拡張計画を発表」

「経団連　歴史的に最もひどい経済状況」

社　会

「カラカス貧困街の犯罪グループ調査」

「ドゥダメル指揮者　米国ツアー中止か」

２０１７年８月１８日（金曜）

政 治

「制憲議会　国会の立法権を奪取」

制憲議会は発足以降、大統領、選挙管理委員会（CNE）、最高裁判所（TSJ）、検事総長とベネズエラの公権力のトップを議会に招待し、各代表は制憲議会の存在を認め、議会の指示に従うというイベントを行ってきた。

公権力のトップで制憲議会に出席していないのは国会のみ。８月１７日に制憲議会は、国会議長らに対して制憲議会への出席を求めていた。

国会が制憲議会の指示に従い議会に出席することは、国会が制憲議会を合憲的な組織であると認めることに等しい。野党多数の国会は当然、制憲議会の求めを拒否した。

デルシー・ロドリゲス制憲議会議長は
「右派は７月３０日に示された民意を無視してベネズエラの平穏を乱そうとしている。これ以上、ベネズエラの主権を脅かそうとする外国と共謀するのをやめるよう求める。」と野党を非難。

「制憲議会と国会の共存に関する政令」を提案。同日、制憲議会で承認された。

内容は極めて簡素。
第一条　国民の平和、安全、主権確保、社会経済システムを確保するため制憲議会が立法権を担う。

「国会が制憲議会に参加せず、国を麻痺させている。国会が制憲議会の存在を認めないのであれば、制憲議会も国会の存在を認めない。国会は無効状態にある。ただし、国会がなくなっているわけではない。国会議員は引き続き国会議員であり続ける。我々は国会の機能の一部（立法権）を担ったのみだ。仮に制憲議会の存在を認めれば、制憲議会は国会の存在を認めるだろう。」
とコメントした。

４月から始まった一連の反政府デモは「国会の機能を最高裁が任命する組織が担う。」と最高裁が決定したことが発端だ。

その時は、検察庁のオルテガ検事総長（当時）がこの決定を「憲法の亀裂」と初めて面と向かって政府を非難したため、政権側が翌日には、この決定を訂正した。
一方でこの決定に対して野党、野党支持者の不満が噴出し、一連のデモに発展していった。

つまり、制憲議会は４月からの反政府デモを起こした原因を再び掘り返したことになる。一方で、国民はすでに４月からの抗議行動で疲弊しており、当時のような盛り上がりは見せていない。

「制憲議会の対応を各国が避難」

当然のように今回の対応については各国政府から非難の声が噴出している。

まず８月８日にペルーで制憲議会への抗議声明を発出した１２カ国（アルゼンチン、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、コスタリカ、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー）が、今回の決定を強く非難した（当時の記事は８月８日記事「ベネズエラ・トゥデイ No.17」参照）。

他、メルコスール、米国、スペイン、英国も同様に政府の姿勢を非難。
米州機構のアルマグロ事務局長は、加盟国に臨時会合を開くよう要請した。

メキシコ外相はキューバに訪問し、ベネズエラの政治混乱を解決するために仲裁に入ってほしいと願い出た。なお、その際にメキシコ側からキューバに対してBancomext による３，０００～５，６００万ユーロ相当のクレジットラインを提案したようだ。これによりキューバは輸入を増やすことが出来る。

ただし、キューバが支援した結果、メキシコが望むような結末になるかは疑問だ。キューバはベネズエラの政策に影響を及ぼす力を持っているが、政治的に重要なパートナーでもある。キューバはベネズエラの野党が政権に就くことを望まない。対話の仲裁は現政権の存続ありきの話になる。

そもそもキューバの仲裁では野党側が対話のテーブルにつくとは考えにくい。万が一、与野党対話を実現させても、結果的に国際社会の緊張を解くだけで野党側に得られるものが何もないという結果にもなりかねない。

「制憲議会　国会との対話ルート設定を希望」

制憲議会は国会の権限を奪取する一方で、国会議員との対話ルートを作る方法を探っている。

デルシー・ロドリゲス制憲議長は、ツイッターで

「両議会の対話を促進するため、フリオ・ボルヘス国会議長に対して国会議員５人の代表を指名するよう要請した。この会合は、ロドリゲス・サパテロ元スペイン大統領が立ち会う。古い議会との対話委員会を通して、平和と共存の道を探る。」と投稿している。

ロドリゲス・サパテロ元スペイン大統領は、これまで与野党対話を仲介してきた。制憲議会選挙の直前にはベネズエラ政府の姿勢を正すよう要請する文章が公開され、マドゥロ大統領からこの文章を公開するか事前に相談を受けていなかったとクレームを受けている。（詳細は「ベネズエラ・トゥデイ No.13」参照）。

ただし、この文章はサパテロ氏が政府を非難する目的で公表したのではなく、与野党が極秘に対談した際に作成された資料が流出しただけだとの噂がある。

「野党　ララ州知事の連続出馬を非難」

野党としてララ州へ出馬を申請しているルイス・フロリダ元国会議員は、野党連合に属する発展進歩党（AP）のヘンリー・ファルコン党首（現ララ州知事）を非難した。

ルイス、フロリダ元国会議員は、
「野党連合の方針として、公職者は期限なく再選するべきではないと考えている。ファルコン氏が再びララ州知事選に出馬することは我々の方針に合わない。」
と再選を目指すファルコン知事の姿勢を非難した。

野党の候補者は、候補者を各州で一人に絞るため９月３日か１０日にプレ選挙が行われる予定。

「元検事総長　Odebrecht 汚職に大統領も関係」

ルイサ・オルテガ元検事総長の夫ヘルマン・フェレール国会議員に対して、汚職の容疑で逮捕命令が出ている（「ベネズエラ・トゥデイ No.21」参照）。

このような状況の中で、オルテガ夫妻はメキシコで開催されたラテンアメリカ検事総長会議にスカイプで参加した。

その会合で、ブラジルの建設会社 Odebrecht に関連する政府内の汚職にマドゥロ大統領やその側近も関わっていると発言した。

以下、オルテガ元検事総長の発言の要約。

「政府は我々を必死に探している。理由は Odebrecht の汚職問題にある。政府は、我々が汚職に関わる金融取引の詳細など、すべての情報を持っていることを知っている。この調査にはマドゥロ氏とその関係者も含まれている。

政府が我々を拘束したい理由は、この証拠を破棄したからだ。私から検事総長の職を奪った人間（タレク新検事総長）が、木曜に私を汚職に関わっていると告訴した。権威主義の政府の行動を助長している。」

経 済

「PDVSA 総裁　外国の金融ブロックを非難」

デル・ピノ PDVSA 総裁は金融ブロックを受けていると米国を非難した。

「米国は我々への支払いをブロックしている。我々は融資を得るために中国など様々な国に奔走しなければいけない。あるいは第三国融資をしなければいけない。すでに我々の国に対して金融ブロックが適用されている。」と米国によるベネズエラへの制裁行為を非難した。

「今週の原油価格は１バレル４５．１ドル」

８月１４日～１８日のベネズエラ産原油の平均価格は４５．１１ドル／バレルで前週よりも１．４ドル下がった。

２０１７年の平均原油価格は４３．７７ドル／バレル。２０１６年の平均３５．１５ドルよりも８．６２ドル高く、２０１５年の平均４４．６５ドルよりも０．８８ドル低い。

「DICOM　第１３回の結果を公表」

中央銀行の外貨競売委員会は第１３回目のDICOM の落札結果を公表した。
今回も特別競売。国内で製品を生産するための原材料、資材を輸入する企業に対して外貨を割り当てた。

落札レートは１ドル２，９７０ボリバル
落札総額は２，２６０万ドル。

法人への外貨割当ては１７６社、１，８２０万ドル。農業部門に５５％、工業部門に２５％。医薬品部門に８％の外貨が割り当てられた。

個人は１５，００４人に４４０万ドルが割り当てられた。３８％は貯蓄目的、３８％は外国旅行のため、１６％は医療目的、その他の目的が８％だった。

なお、今回はDICOMを通じて外貨を売却した法人の売却総額が２３０万ドル、個人は６，３５５ドルだった。

これまで１３回のDICOMによる落札総額は３億４，７１０万ドル。うち２億２，４１０万ドルは法人、６，３００万ドルは個人だった。

詳細は DICOM 専用ウェブサイトより確認できる。

２０１７年８月１９日（土曜）

政 治

「元検事総長夫妻　コロンビア入りを確認」

コロンビア移民局は、制憲議会により８月５日に検事総長を解任されたルイサ・オルテガ氏とその夫ヘルマン・フェレール国会議員がコロンビアに到着したことを発表した。

夫妻は、１８日（金曜）深夜にカラカスを出てパラグアナ半島から小型ボートに乗りアルーバに到着。アルーバからプライベート飛行機でボゴタに到着した。
プラーベート機には夫妻のほかに、汚職の容疑をかけられているヒオコンダ・ゴンサレス氏も同乗、他に汚職対策班のアルトゥロ・エステベス氏も同乗していた。

オルテガ氏は今後、米国ワシントンでトランプ大統領と会談する可能性がある。

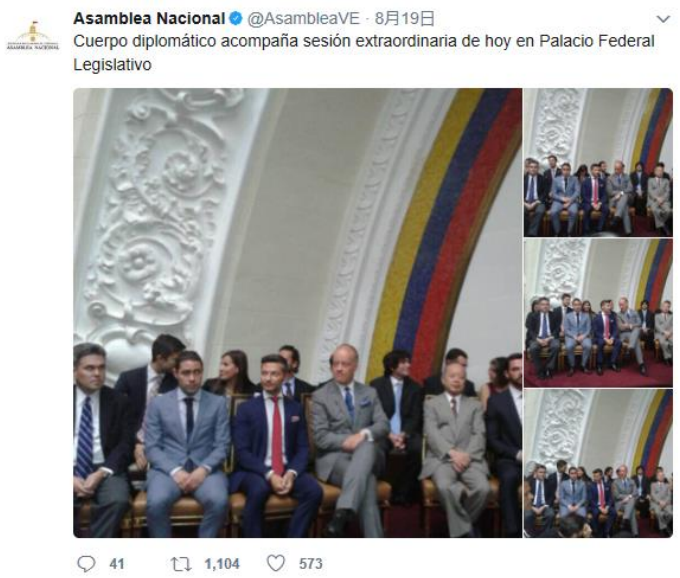
「国会　制憲議会の決定を拒絶」

８月１８日に制憲議会は国会の立法権を担う決定をした。この決定を受けて翌１９日 AM１０時から臨時国会を開催した。

議題は

・国会を解散させ、その機能を奪おうとする計画の調査
・国際社会にベネズエラの主権を守り、国会の合憲性を保護するための適切な措置を採るよう求めること
の２点。

同会合に１８カ国の大使館員が参加した。日本大使館も参加している。他、チリ、イタリア、ドイツ、オーストラリア、アルゼンチン、ポーランド、メキシコ、フランス、スペイン、英国、ポルトガル、カナダ大使館代表の出席が確認されている。



（写真）国会 Twitter

フレディ・ゲバラ国会第一副議長は

「我々を解散させることは誰にもできない。国民のために議員は国会と国会の役割を守る。国会を解散させることを容認できない。国会が唯一かつ合法的に組織された組織だ。外国に対してベネズエラの状況を強く訴えていく。
制憲議会から１８日の会合に出席の招待が送られてきたが、同議会からは誰にも参加の確認をしてくる者はいなかった。制憲議会は、我々を招待する意志はなく、初めから国会の権限を奪うつもりだった。」
と制憲議会を非難した。

フリオ・ボルヘス国会議長は
「制憲議会の決定は、最高裁が国会の権限を奪おうとした事件の再現だ。国会は解散することはできない。」と宣言した。

「外相　サパテロ氏仲裁の対話を呼びかけ」

国際社会からの非難に対してアレアサ外相はロドリゲス・サパテロ元スペイン大統領を仲裁者とする対話の場を持とうと呼びかけた。

「諸外国はこの会合に参加することで、介入ではなく、対話の意志を示すことができる。また、この会合に参加することで、国家主権を無視し、政治的な基盤を固めて政治介入しようとする米国帝国主義の実態を見ることが出来る。」と述べた。

会合の開催日時、場所は近日中に発表される予定。８月８日にマドゥロ大統領は ALBA 諸国の会合で国際会議の開催を求めていた（８月８日記事「ベネズエラ・トゥデイ No.17」参照）。

「大統領　１８年の大統領選出馬に意欲」

８月１８日（金曜）　マドゥロ大統領は２０１８年末に行われる大統領選挙で再選を目指すと発言した。

同時に野党で発展進歩党のヘンリー・ファルコン党首を名指しし、大統領選で戦おうと宣言した。

「２０１８年に我々は対峙する。あなた（ヘンリー・ファルコン）は２０１８年の大統領候補になるだろう。我々は、ファルコン知事の資金の源泉を知っている。大統領の選挙キャンペーンで会おう。」と発言した。

筆者は個人的にヘンリー・ファルコン州知事をベネズエラの政治家の中で最も気に入っている。ファルコン氏はチャベス大統領と仲たがいした離反チャビスタであり、当然与党ではないが、第一正義党や大衆意志党など完全な野党とも一線を画す存在になっている。

野党は与党との対話意思が乏しく、政治的な衝突は深刻さを増す一方だが、同氏であれば中間地点で立ち振る舞うことが出来ると考えている。
ちなみにファルコン氏が野党に受け入れられているかと言えば、元々チャビスタの政治家なので野党派の一般市民にはそこまで好かれていない。

（写真）ヘンリー・ファルコン Facebook より抜粋

「エクアドル　ベネズエラ大使を帰国」

エクアドルのレニン・モレノ大統領が在ベネズエラ大使と在キューバ大使を帰国させた。この報道はファン・フェルナンド・フローレス議員のツイッターで確認された。

ラファエル・コレア大統領の時代、エクアドルは強固なベネズエラ政府の同盟国だったが、後任のモレノ大統領は別の考えを持っている可能性がある（８月１４日記事「ベネズエラ・トゥデイ No.20」参照）。

まだ大使を戻しただけで、後任の大使が誰になるのかは不明。今後、エクアドルがベネズエラ同盟国を降りるとすると南米でベネズエラ政府を声高に支持するのはボリビアのモラレス大統領だけになる。

経 済

「米国に PDVSA の石油船停泊」

ロイター通信によると、米国ルイジアナ州サウス・ウエスト・パスに１カ月以上、PDVSA の石油タンカー（Suezmax Karvounis タイプ）が荷下ろし待ちの状態で停泊しているようだ。

米国の購入者の取引銀行が信用状を発行しくれないことが、荷下ろしが停止している原因。

石油タンカーは６月にカリブ海のサン・エウスタキオで荷詰めされ、７月初めから荷下ろしの指示を待っている。

デル・ピノ総裁の発言した金融ブロックはこの取引のことを言っている可能性が高いだろう。

「中銀　２０億ドルの流動性資金あり」

ロイター通信は、「ベネズエラ政府（PDVSA 社債除く）は２０１７年中に１３億ドルの債券利息を支払わなければならない。一方でベネズエラ中央銀行は１３億ドル以上の流動資金を保有している。

シンテシス・フィナンシエロによると、ベネズエラ中央銀行は２０億ドルの流動資金を保有している。うち８．５億ドルが外貨準備の現金。４．３億ドルが IMF の SDR、７億ドルは国営銀行口座にある。

現在の外貨準備は９８．８億ドルと過去２２年間で最も少ない水準にある。更にこのうち７５％は鋳造された金である。このほとんどが中央銀行の倉庫に眠っている。この金を用いて取引する場合は外国に輸送しなければならない。

２０１７年中、マドゥロ政権は毎月平均で８億ドルを輸入のために使用した。

一方で PDVSA は１７年中に３０億ドルは金融債務を支払う必要がある。」と報じた。

なお、ベネズエラ中央銀行の外貨準備の動きについては１カ月前に資料を作成しているので参照されたい。

「２０１７年６月末時点の外貨準備の動き」

社　会

「貿易外国投資相息子が乗った飛行機が墜落」

８月１９日　小型機が海上に墜落。ミゲル・ペレス・アバッド貿易外国投資相（ビセンテナリオ国営銀行頭取）の息子を含む５名の搭乗者が亡くなった。

小型機はアンソアテギ州バルセロナに向かう予定だったが、離陸してから数分後にレーダーから消え、その後、バルガス州の海上に墜落したことが確認された。
ミゲル・ペレス・アバッド大臣は駐在中に何度か会う機会があり今回の事件は非常に残念。

なお、亡くなった５人のうちのルイス・ナポレオン・ピカルディ・フローレス氏はマドゥロ大統領と関係のある人物で重械、飛行機などを扱うアンソアテギ州 Servicio Picardi, C.A,のオーナーだった。

２０１７年８月２０日（日曜）

政 治

「大統領　元検事総長の汚職加担を指摘」

マドゥロ大統領はテレビ番組「ホセ・ビセンテ・オイ」に出演した。ルイサ・オルテガ元検事総長について

「大統領に就任してから４年間経つが、これまで汚職対策でルイサ検事総長の支援を期待したことはない。今日から大統領として、彼女が守ってきた汚職体質の全てを見つけ出すだろう。」
夫フェレール議員が関与している汚職はオリノコ流域地帯の契約に関わるもので、検事総長が汚職を行った者たちを国外に脱出させる手助けをしていたと答えた。

（写真）テレビ映像の抜粋

なお、１８日にメキシコで開催された検事総長会合で、ルイサ・オルテガ元検事総長は、

「マドゥロ政権が適切な手続きを経ることなく６４名の検事に対して出国禁止措置を採った。理由は彼らが Odebrecht の汚職に関して証拠を持っているからだ。」と非難している。

経 済

「専門家　１７年の石油輸出は３３０億ドル」

ベネズエラの経済調査会社 ODH コンサルティンググループのバルバラ・リラ氏は、

仮にベネズエラの原油生産量が日量２２７万バレル、1バレル４５ドルで輸出できていれば、１７年の石油産業の輸出額は３７０億ドルに達しただろうが、
実際は産油量が減っており石油産業の輸出額は３３０億ドル程度になるだろう。２０１５年の原油価格は、今年の平均価格とほとんど同じだが、当時は今よりも輸出額が２０億ドル多かった。と分析した。

また、３３０億ドルの一部は中国への債務返済やカリブ海などの協定で同盟国に輸出されている。
石油省が OPEC に送った情報によると２０１７年中に産油量が日量１５．３万バレルも減少している。当然、輸出量にも影響する。OPEC で減産合意をしたが、ベネズエラに定められた減産目標は日量９万バレルだった。目標を大幅に超えている。

もし２０１２年に PDVSA が計画した「シエンブラ・ペトロレラ（石油種まき計画）」の通りに進めば２０１７年の産油量は日量５８０万バレルに達するはずであった。

また予想外の原油価格の下落により、PDVSA の債務返済額は当初の想定をはるかに超える重荷になっている。PDVSA は２０１７年の残りの期間に３０億ドルを支払わなければならない。」と語った。

なお、PDVSA の２０１７年の社債支払い予定は以下を参照。

「１７年　PDVSA 外貨建債券の返済スケジュール」

（写真）PDVSA 写真ギャラリー

「カルボスリア　生産拡張計画を発表」

ベネズエラの石炭公社カルボスリアは１７年中に８００万トンの石炭を産出することを目標としているとリカルド・メネンデス企画相が発表した。

カルボスリア社はオランダ、中国系企業と業務提携を結んでいる。提携先は China Cance 社と Yan Koang Group で４億ドルの投資を行うとのこと。

更に今後１０年間で５，５００万トンまで伸ばし、国に８億ドルの外貨収入をもたらしたいと野心的な計画を発表した。

「経団連　歴史的に最もひどい経済状況」

日本の経団連的な立場にあるフェデカマラのカルロス・ララサバル代表は２０１７年の前期を終えた時点の経済状況を総評した。

「ベネズエラの経済成長率は３年間でマイナス３０～３５％に達する。これまで１万２，０００の公式な法人が存在していたが、今は４，０００～４，５００社にまで減った。

政府が根本的な経済問題の原因を理解していないことが経済混乱の理由だ。
２０１７年の対話は成功を納めなかった。コントロールと承認手続きばかりでは経済は発展できない。

問題の解決先は CLAP（安価な価格で貧困層に食料品を供給する政府の社会開発プロジェクト）ではない。なぜなら CLAP の商品の多くはベネズエラ国内で生産されていないからだ。民間セクターを活性化させる必要がある。歴史上、社会主義で成功になるようなモデルは存在しない。

１７年後期についても良い見通しは立たない。我々には政治経済政策が欠けている。為替管理により法人が原材料を購入するためにドルにアクセスすることを妨げている。」

連日の反政府デモにより経済はほとんど稼働していない。３年間で３０～３５％のマイナス成長というのは大げさな表現ではないと思うし、他の経済学者も似たような試算をしている。

IMF はベネズエラの２０１７年の実質経済成長率をマイナス７．４％から１２％に下げた。また１８年の成長率もマイナス４．１％と予測している。

社　会

「カラカス貧困街の犯罪グループ調査」

La Patilla にカラカス貧困街を牛耳る犯罪組織に関する、興味深い記事があった。以下、記事を紹介する。

リベルタドール市の１５の貧困街には６つの凶悪な犯罪組織がある。彼らは武力により地域で警察的な役割を果たしており、麻薬や武器の取引をしている。

国家警察特別部隊によると Los Kilombos、El Coque、El Loco Luice、Los Perth-Plus、El Macua、El Yilber が貧困街を占拠する主要な犯罪組織。

具体的にはエル・グアラタロ地区、１月２３日地区、エル・バジェ地区、コタ９０５地区、エル・セメンテリオ地区、ラ・ベガ地区などは治安部隊の間ではレッドゾーンと認識されている。

この犯罪集団の中には３つの階層がある。
一つは「La Plana Mayor」。ボディガードがついており、麻薬の売買、誘拐、地域の商売人による支払いを受ける。
２つ目は「Luceros」。警察と直接対峙、調査隊から得た情報を基に誘拐を実行する。
３つ目は「Los Gariteros」。多くの未成年はこの階層から始まり、商人からのお金の徴収や担当地区の見張りなどの役割を果たす。

簡単にお金を稼ぐ方法として、公衆バスの誘拐が挙げられる。また経済活動が多い地域の商売人を誘拐することもあり、誘拐に慣れていない人にとっては公衆バスの誘拐よりもやりやすい仕事とされている。

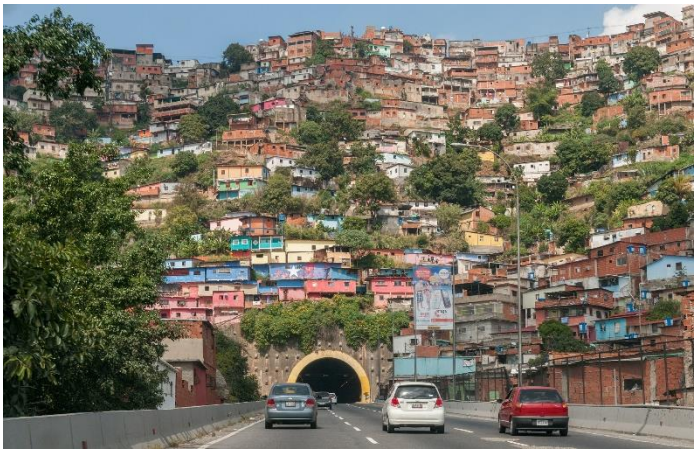
ドルを含め多額のお金が見込めるような本格的な誘拐だと数カ月にわたり行動パターンを調査し、ルートを分析する。この場合、未成年は誘拐グループに入らない。刑務所に入っている「La Plana Mayor」の指示を受けて行動するのが一般的だ。

犯罪者集団はベネズエラの刑法を理解しており、刑法に基づいて行動している。ベネズエラでは誘拐は殺人より重い罪になるため、犯罪者は生かすよりも殺す方を選びがちだ。２５歳未満で１５件以上の殺人を犯した男性もいる。

犯罪学者のケイメル・アビラ氏は、警察と犯罪者の関係が近く、特に武器（拳銃や手りゅう弾）の取引が横行していることを指摘している。

麻薬取引は犯罪者集団の中で最も格の高い犯罪と認識されている。匿名希望の人物からの情報によると、ミランダ州バジェ・デ・トゥイ地区に大きな研究所が２カ所あり、コロンビア人とベネズエラ人が管理している。麻薬はバジェ・デ・トゥイ地区からリベルタドールの貧困街に運ばれる。よって、この研究所には最新鋭の武器や対策が施されている。

犯罪組織は自分たちの管轄地域に警察が入ることをとても嫌がる。時には警察を殺す事件にも発展する。



（写真）Pixabay “カラカスの貧困街（ランチャ）”

「ドゥダメル指揮者　米国ツアー中止か」

ベネズエラにはグスターボ・ドゥダメルという世界的に有名な指揮者がいる。

ドゥダメル氏が指揮するシモン・ボリバル青年オーケストラが米国で９月９日、１４日、１７日、２１日と予定されていたが、大統領府からコンサートの中止を指令されるようだ。

このオーケストラ団は今回のツアーのために選ばれた１１～１８歳の１８０人の青年で構成されており、本番に向けて３カ月ほど練習をしていた。

ドゥダメル氏はこれまで政治に関してはあまり声明を発表せず、野党支持者らの非難を受けていた。しかし、５月に入り政権に対して国民の声を聴くよう要請。その後、政府を批判している。

マドゥロ大統領は８月１８日（金曜）にドゥダメル氏について

「グスターボ・ドゥダメル氏は我々のことを理解していないようだ。ドゥダメル氏は政治の世界に入り込んだ。我々を裏切ることを認めるが、子供は純粋で考えを刷り込まれやすい。子供たちに対して倫理観を持って振舞うよう要請する。」とけん制した。

政府を批判する指揮者に公費を使用するつもりはないというスタンスの表れだろう。

（写真）グスターボ・ドゥダメル指揮者

以上